

### 平成23年度医学部FD(教員研修)開催！

医学教育センター長 福沢嘉孝

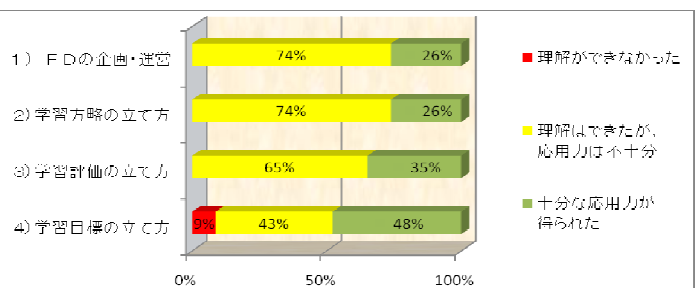
平成23年12月17日から18日までの2日間にわたり、邦和セミナープラザ(名古屋市港区)において、平成23年度医学部FD(教員研修)「第5回医学教育ワークショップ」が開催されました。

「愛知医大の卒前教育の問題点とその改善のストラテジー その5」の研修課題に対して、23名の先生方が参加下さいました。今回は、これまで以上に熱い議論が展開され、本学の医学教育の向上に繋がる大きなプロダクトが得られました。今回主眼を置いた「臨床実習前教育」及び「参加型臨床実習」の課題を中心に、全ての参加者がそれぞれの持ち場において、研修で得たものを積極的に活かし医学教育の向上を目指して頂けるのではないかと期待されます。

研修終了時に、参加者により今回の研修の“振り返り”を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

### 今回のワークショップ参加者の“習得度”は？

	理解ができなかった	理解はできたが、応用力は不十分	十分な応用力が得られた
1) FDの企画・運営	0	17	6
2) 学習方略の立て方	0	17	6
3) 学習評価の立て方	0	15	8
4) 学習目標の立て方	2	10	11



### 今回のワークショップはどのような“評価”だったの？

#### 1) 内容の価値について

価値なし	価値少ない	やや価値あり	価値あり
0	2	10	11

#### 2) 内容に対する時間について

少なすぎ	やや少ない	やや多い	多すぎ
1	4	14	4

#### 3) 内容の難易度について

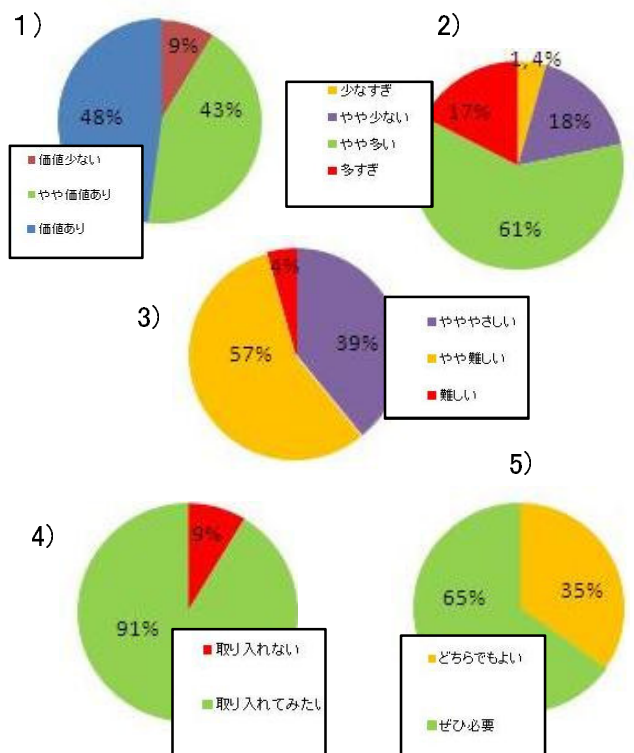
やさしすぎ	やややさしい	やや難しい	難しい
0	9	13	1

#### 4) このような教育法を、今後取り入れてみようと思いませんか？

取り入れない	取り入れてみたい
2	21

#### 5) この規模のワークショップを持続することについて

必要ない	どちらでもよい	ぜひ必要
0	8	15



## 今回のワークショップにおいて“良かった点”は？

- ◆ SGDで活発な議論が出来た事が良かったと思います。
- ◆ 勉強になりました。
- ◆ ほとんどの時間がディスカッションであったこと、同じメンバーで一日話し合えたこと。
- ◆ モチベーションが上がった。
- ◆ GIO, SBO2, 方略, 評価の手順を学ぶ事が出来た。
- ◆ 皆様の問題意識がよくわかり、有意義であった。
- ◆ カリキュラムの立案等にあたって、具体的な方略を学ぶ事が出来た。
- ◆ 全体的にとっても勉強になった。
- ◆ 順序立ててテーマを立てられるようになった。
- ◆ 教育の具体的な方法論や用語・応用方法が理解できたこと。
- ◆ メンバーが良かった。
- ◆ 多くの先生と知り合いになれたこと。
- ◆ 教員の交流が出来た。
- ◆ 色々な先生とお話が出来た。
- ◆ 人間関係が広がってよかった。
- ◆ 飲みコミュニケーションを通じていろいろとお互いを知るきっかけを得たこと。
- ◆ 他部門とコミュニケーションがとれたこと。
- ◆ 他科医師との話が出来た。
- ◆ 他講座の状況を伺う事が出来た。
- ◆ 教員同士の交流が出来た点。
- ◆ 基礎科学でも参加でき、もちかえることのできる内容で良かったです。基礎科学の先生方にも伝えたいと思います。
- ◆ 昨今の医学教育の新しい(動向)を得ることが出来た。



## 今回のワークショップにおいて“改善すべき点”は？

- ◆ 時間が長すぎると思います。
- ◆ テーマの難易度に拘わらず、SGDの時間が一律であった印象あり。前のテーマのまとめをプロジェクターに映せるようにしてほしい。
- ◆ 各部屋にプリンターまたはプロジェクターが必要。
- ◆ 特にないが、食事の時間が短いかと思えます。
- ◆ 食事の時間が短い。
- ◆ 時間が押していて昼食の時間が短い。
- ◆ 今日のワークショップの内容が上に報告されるのか。ワークショップをする事で何か改善される事はあるのか。
- ◆ 得られた結果がきちんと教育現場にフィードバックされるか？
- ◆ はじめに今研修の全体的流れを説明してほしい。
- ◆ ワークショップの目的、到達点を開始時に明確に提示してもらえると理解がし易いと思えます。
- ◆ 詳細(言葉の問題)の説明がない。
- ◆ 臨床実習がテーマの中心であるため、基礎講座の教官にはイメージしにくい点。
- ◆ 夜9時からの情報交換会で、基礎と臨床の先生との交流がもっとあればいいと思えました。例えば、席を指定する方法があります。
- ◆ 発表したスライドについて、次のSGDの際にプリントして配布して頂きたい。
- ◆ 週末に拘束されるのは辛いです。
- ◆ より良い教育をするには、教員を増加すべきだ。
- ◆ 成果が今後しっかり取り入れられるのが問題。



FD部門長としての総括

米田 政志

石川学長、佐賀医学部長の下、福沢センター長、小島(化学)、中尾(消内)、藤原(麻酔)、鈴木(手術部)各部門員の先生方に部門長の私を加えた6名がタスクフォースを担当し、九州大学大学院医学研究院医学教育学の吉田素文教授に特別講演を頂き、第5回医学教育ワークショップが無事に終了しました。参加・協力して下さった皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。部門長としましては、回を重ねる度に、「医学教育ワークショップ」の役割と重要性が年々高まってきていることを実感しています。今後も、“振り返り”で得られましたご意見、ご要望等を基に、本学に必要なと思われるテーマを積極的に取り入れる等、研修プログラムの一層の充実を図りたいと考えております。